

(2) 授業シーンに合わせた活用モデル

(『電子黒板活用ガイド』電子黒板活用効果研究協議会著より引用，一部改編)

教師の活用モデル

活用モデル	提示するもの	使い方
	文字 図形・イラスト	通常の板書をしたり，図やイラスト等を書いて説明する。
	教科書 生徒のノート ワークシート テスト・宿題プリント	拡大提示した教科書の本文や挿絵，図，グラフ等に，書き込みながら説明する。
	実験器具・用具	書写における筆の使い方，裁縫，理科の実験の様子を提示し，書き込みながら説明する。
	デジタルコンテンツ（動画やシミュレーション，プレゼンテーションなど）	教師がコンテンツを電子黒板で直接操作しながら提示する。
	教科書・資料集，ワークシート，話し合いの記録	学級会，国語，社会などで，話し合いの記録を提示しながら授業を進める。

生徒の活用モデル

活用モデル	提示するもの	使い方
	教科書・資料集 問題集・テスト	問題などを提示し、生徒がその答えを書き込む。
	デジタルコンテンツ（ドリルやクイズなど）	生徒が電子黒板で直接コンテンツを操作する。
	ワークシート 写真・ビデオ プレゼンテーション 壁新聞	社会・美術・技術・総合でつくった制作物や観察記録などを提示し、書き込みながら発表する。
	生徒のノート、プリント・ワークシート、コンテンツ	数学の図形や理科の実験の予想などで、自分の考えを提示し、書き込みながら説明する。
	教科書・資料集 ワークシート 話し合いの記録	学級会や国語、社会などで、資料や話し合いの記録を提示、書き込みながら話し合う。